

## 第4回 百貨店研究会

- ▶ 今後の検討項目
- ▶ 検討に向けた課題
- ▶ 研究会終了後のイメージ

令和3年6月17日  
一社) 日本百貨店協会

**仕入先、百貨店が連携し非競争領域において、規格標準化、共通プラットフォーム構築により、運用コスト削減、環境負荷軽減、顧客サービス向上を目指した取組みを加速**

### **1.業界共通のプラットフォーム・インフラの整備**

- 販売情報の共有による生産最適化、過剰在庫の削減（アパレル・食料品廃棄ロス）
- 店頭、EC在庫連携による効率的、迅速な販売体制の構築（在庫の効率化・売上の向上）
- 受発注・売上集計の負担軽減による販売員の労働時間短縮（働き方改革） 等

### **2.サプライチェーンの非効率性に起因するロスの削減・環境負荷低減**

- 共同物流、共同在庫管理による過剰在庫の削減や迅速な納返品業務の実現
- 納品関連資材（段ボール等）廃棄削減に向けた、標準規格の共通「通い箱」への変更 等

### **3.人手不足や働き方改革の流れを踏まえた店舗運営のあり方**

- 営業日、営業時間の適正化に向けた業界ガイドラインの検討
- 取引先派遣者登録、連絡文書等、百貨店共通業務の電子化による業務効率向上 等

### **4. 地方経済の活性化に向け、立地や戦略に応じた今後のビジネスモデルのありかた**

- 地域における成功事例、参考事例の共有化

## 今後の具体的検討に向けた課題

### 1. 課題事項の確認

- 百貨店ごとに戦略が異なる中で、各社が認識する構造的課題の調査  
⇒「大手百貨店」、「地方百貨店」、「単店運営百貨店」など、様々な状況下にある百貨店での課題認識の確認
- 仕入先業界ごとの百貨店関連業務に関する要望・課題のヒアリング  
⇒「アパレル」、「家具・家庭用品」、「食料品」、「特選ブランド」、「宝飾品」など、取引商材ごとの課題認識の確認

### 2. 百貨店協会として対応すべき課題選択

- 各社対応とすべき課題、共通の課題として百貨店協会として取組むべき事項の整理
- 実施にあたって、百貨店協会、百貨店各社、仕入先の役割分担、座組みの整理  
百貨店各社と仕入先との費用負担に関する事項についてのルール作りなど

# 百貨店研究会終了後のイメージ

経済産業省

日本百貨店協会

令和3年度

## ■百貨店研究会(令和3年3月～7月)

- ・報告書作成(地域・DX・働き方など)
- ・課題洗い出し(大項目)
- ・自助・共助・公助の振り分け



## ■百貨店研究会WG(令和3年9月頃～)

- ・詳細課題の抽出、分類
- ・対応への優先順位付け
- ・実現可能性の検討
- ・プロジェクト参加プレイヤーの選抜

運営支援: 経済産業省

会議運営: 日本百貨店協会

参加者: 百貨店大手数社・取引先・システムベンダー・納品代行等



## ■プロジェクトA(ex.業界共通のプラットフォーム)

## ■プロジェクトB(ex.時短、休業日)

## ■プロジェクトC(ex.地域活性化)

委員会ベースではなく、課題テーマごとのメンバー構成  
(百貨店・取引先・システムベンダー・納品代行・コンサル等)

令和4年度

## プロジェクトの継続

- プロジェクトA(ex.共通基盤)
- プロジェクトB(ex.時短、休業日)
- プロジェクトC(ex.地域活性化)



## ■共同実証実験(令和4年夏頃～)

- ・EDIの統一? RFID? 地域活性化?
- 時短?



## ■業務改善フォーラム

- ・プロジェクトごとの成果発表